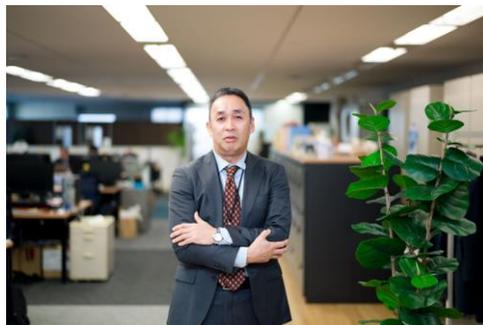


INTERVIEW

電力・ガス取引監視等委員会事務局 取引監視課
萩原 泉 上席小売取引検査官
着任時期：2023年1月
経歴：公認会計士・事業会社（経理部門）



ーご経歴・現ポストに至る経緯を簡単に教えてくださいー

もともと監査法人に勤務していましたが、そこから民間企業の経理部門に転職しました。少し早めの引退をして、仕事は一区切りと思いつくりに過ごしていたのですが、まだリタイアには早い、もう一度何かに挑戦したいと思っていたところで、電取委の公募を見つけて応募しました。コロナの影響で面接はフルリモートでしたが（笑）。

ーキャリア後半での新チャレンジとのことですが、電取委を選んだ理由は？ー

単純に募集のタイミングが自分のニーズとあってたことが応募のきっかけとしては一番でしたね。ですが、面接などで話を聞く中で行政の仕事にも興味が出てきました。それ以前はずっと民間企業にいたので、心機一転チャレンジしてみようかなと思い、最終的に入省を決意しました。

ー行政の世界に飛び込んで驚いたことや新鮮だったことはありますか？ー

職場環境という意味では人の雰囲気ですかね。まじめな方が多い印象を受けました。あとは、打合せや外部の有識者へのレクといった機会が非常に多いことは驚きました。最初は仕事のスタイルなど戸惑いもありましたが、外部の先生方などはやはりリスペクトできる方が多いです。そういった方々と関わる機会が多いのは新鮮で、良い経験になっていると思いますね。

ーある意味大きなキャリア転換かと思いますが、特に印象深い業務などはありますか？ー

規制料金の値上げ審査ですかね。ここだけの話、当初は働き方も結構柔軟にということだったんですが、この時は嵐に巻き込まれたように忙しかったです（笑）。ですが、忙しさはもちろんありつつも、同時に世間的に関心の高いトピックに直接携われるということには大きなやりがいも感じていましたね。審査中での担当も、設備投資関係ということで、会計士としての知識・経験がダイレクトに活かせるものでしたし、事業者等とやり取りをする中でも大きな苦労や違和感なく、自分の専門性を活かした仕事ができたと感じています。



世間的に関心の高いトピックに直接携われる

ー電取委着任以来そんな嵐も経験された（笑）萩原さんですが、ご自身の中で電取委のキャリアはどのように位置づけられているのでしょうか？ー

もともと電取委は自分の人生の中でまったくかかわる予定のなかった場所でしたし、自分としては一回、区切りをつけたキャリアの中での最後のステップアップ・挑戦だと考えています。実際に業務にあたっている中でも、電取委はその挑戦マインドには応えてくれる環境だと感じますね。電力業界って普段なかなか関わるものではないけれど、電力自体は消費者として日々関わるものじゃないですか。そこに当事者として携わっていくというのは、自分にとって挑戦としては不足なしです。

その中で、会計という自身の専門性があることも挑戦の武器になりました。電力自体は初挑戦でしたが、会計を切り口に理解をしていくことができたのは大きかったです。

ーちなみに、先ほど少し話が出ましたが働き方はいかがですか・・・？ー

忙しいことはもちろんですが、テレワークは民間にいたころよりも活用できていると思います。登庁しないとできない業務が多いというわけでもなく、テレワークを活用しつつ働き方を調整しています。

ーありがとうございます。最後になりますが、何か一言！ー

電力・ガス業界の経験のなかった自分も心機一転、思い切って電取委に飛び込んできわけですが、未経験の分野に挑戦することに抵抗がある方には困難な部分もあるかもしれないけれど、逆に挑戦してみようという人にとっては良い環境ですし、何より、それに応えてくれる職場だと思います。

一回、
区切りを
つけた
キャリアの
最後の
ステップ
アップ・挑
戦だと
考えてい
ます

